



地域の発展に役立ち、地域の人に感謝される金融機関が実現できてこそ、地域に存在する金融機関としての存在目的を果たすことができると考え、地道に努力してまいります。

第13回「大阪商工信金社会貢献賞」



第13回「大阪商工信金社会貢献賞」表彰式

心豊かな住みやすい地域の実現に向け、日頃地道な活動に努力されておられる方々や社会課題・地域課題の解決というミッションを最優先に考え、公益性と事業性を両立させた継続的な活動(事業)を顕彰することにより、持

1部 地域貢献の部

- 特定非営利活動法人国際交流の会とよなか
- 千里キャンドルロードプロジェクト
- ちまちま工房
- 特定非営利活動法人西成チャイルド・ケア・センター
- NPO法人にしよどこネット
- 箱の浦自治会まちづくり協議会

2部 ソーシャルビジネスの部

- 認定NPO法人ノーベル
- 株式会社ラヴィコーポレーション

続可能な社会の実現を目指すこのような活動の輪が大きく広がることを期待して、今年第13回の受賞団体を上記のとおり決定し、表彰にあわせて「大阪商工信金社会貢献活動助成金」を授与いたしました。

「社会的養護が必要な子どもたち」への支援



当金庫の役職員を対象に講演会を実施

平成30年度は「社会的養護が必要な子どもたち」を年間テーマとし、社会課題への理解を深めるため、役職員を対象にNPO法人日本子ども支援協会による講演会を実施しました。現在日本には虐待や育児放棄、家庭環境を理由に保護者と一緒に暮らすことができず、社会の養護を必要とする子どもたちが

45,000人います。その内39,000人以上が児童養護施設での集団生活を余儀なくされており、里親のもとで暮らしている子どもは6,000人以下です。複雑な家庭環境で保護される子どもたちは、やがて自分が家庭を持つ際に、親と同じく複雑な家庭環境に陥りやすい傾向にあります。その連鎖を解決するには「家庭養育」が大きなカギであり、将来の自身の家族モデルとなる体験が必要です。しかし、日本では里親についての理解や里親家庭の担い手がまだまだ不足しています。この現状の周知と里親制度の普及を目的として、「全国一斉里親制度啓発キャンペーン」に参加し各営業店にて里親のシンボルである“なでしこ”の苗とリーフレットを配布いたしました。



営業店での配布の様子



なでしこの苗とリーフレット

商工さくら基金

「商工さくら基金」は平成21年4月にスタートしました当金庫の役職員、OB・OGによる募金活動です。役職員は毎月の給与と賞与から1口100円任意の口数を、OB・OGからは年会費を積み立て、役職員のボランティア活動や各営業店の地域貢献活動「さくら基金スマイルサポート」への支援、「さくら賞」を通じて地域で活躍する団体への寄付などを行っています。約8割以上の役職員がこの活動に参加しており、一人ひとりから寄せられた想いを広く社会貢献に役立てています。



平成30年度の活動

- エコ定期『まねぎeco』のお客さまの寄付と併せて生駒山系「花屏風」構想へ寄付

- 第10回「さくら賞」受賞団体への寄付

第13回「大阪商工信金社会貢献賞」応募団体の中から職員が応援したい団体を選定し活動資金を支援いたしました。

第十三回 大阪商工信金社会貢献賞



特定非営利活動法人
日本子ども支援協会

第十三回 大阪商工信金社会貢献賞



特定非営利活動法人
ファザーリング・ジャパン関西

- 「信用金庫の日」(6月14日)に来店されたお客さまに“緑の苗”(ペチュニア)をプレゼント



- 第9回「さくら賞」受賞団体とのコラボ企画

第9回「さくら賞」を受賞された「NPO法人弱視の子どもたちに絵本を」とのコラボ企画として、当金庫役職員と団体会員の子どもたちとフロアバレー交流会を実施しました。

当日は大阪府立南視覚支援学校にご協力いただき、会場提供とフロアバレー部員及びOBによるレクチャーを受けることができました。参加役職員のほとんどがフロアバレー初心者でしたが、半日のスケジュールの中で試合まで行うことができ、スポーツを通じて視覚障がいをもつ子どもたち、学生と当金庫役職員との相互理解を図ることができました。

*フロアバレーとは、全盲や弱視の視覚障がい者と健常者が一緒にプレイできるように考案された球技で、アイマスクをつけた前衛選手に後衛選手が声で指示を出すのでコミュニケーションとチームワークが求められるパラスポーツです。

